

令和3年度 学校園評価シート

(様式2)

学校園名	加古川幼稚園
------	--------

1 教育目標 「やさしく たくましく」ー豊かな体験と遊びを通しての学びー

2 基本方針
 幼児の一人一人の特性や発達を捉え、安心安全に園生活を送るための適切な援助や環境構成を工夫する。また、幼児期の終わりまでに育てたい姿を意識しながら自立心、学びに向かう力や協同性を養い、小学校や地域との関わりや体験活動を通して健康で主体的に行動できる幼児の育成を目指す。

3 指導目標
 (1)健康で 明るい子 (2)自分で考え 行動する子 (3)優しく 思いやりのある子 (4)豊かに 表現できる子 (5)根気強く 最後まで頑張りぬく子

評価基準 A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

重点目標	評価項目	達成状況	成果	課題と改善の方策	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
基本的な生活習慣を確立する	◎健康で明るい子 ・挨拶や基本的な生活習慣の確立をめざし、発達段階に即した生活を送ることができた。 ・幼児の体調、けが、事故などに関して常に敏感に対応し、特にコロナ禍での対応について健康チェックシートやスクリレの活用等保護者と連携を取りながら適切な処置を行っていた。また、遊具、施設点検を定期的に行い、安心、安全に過ごせるよう努めた。 ◎自分で考え、行動できる子 ・指導計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成、遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供したり、展開に応じた環境の再構成をしたりした。また、一人一人の発達段階に応じた対応や視覚支援等を行うことで自信をもって行動できるよう支えた。	A	○常時マスク着用の中でも、少しでも心地良さ、安心感、相手と共感し合う喜びを感じながら生活を送ることができるように、アイコンタクト、目元の表情、声掛けに留意して援助を行なった。 ○毎日の感染症対策に加えて弁当の食べ方、過ごし方に工夫するなど新型コロナウイルス感染症対策をとった。 ○幼児の発達や興味に寄り添った保育内容を考えた。今年度はオリンピックが開催されたこともあり海外やSDGsの考え方に興味を広げられるような環境構成、援助を行なった。	△個別支援を要する幼児が全体の約3割であり、他の職員と相談しながら進めたが難しい面も多かった。来年度以降もより個別の支援を要する幼児が増えることが予想されるので、保育の質を高め、個々の発達に応じた過ごし方を園全体で共通理解する必要がある。 △SDGsについて保育を考える機会をもった。幼児たちは、より自分で考え、行動できる力が求められる時代を生きていくが、そのために教師自身が最新の情報や考え方をアップデートしていくことが必要であると痛感した。	・コロナ禍で今までの当たり前の生活が困難な中、園に出来るだけの経験や活動が出来るよう工夫されていることがわかる。 ・幼児や保護者への必要な支援をしっかりと行っている。	A
身体を動かし体力を向上させる	◎根気よく最後まで頑張りぬく子 ・体幹を鍛える遊びを取り入れたり、竹馬やパカポコ等を通して集中して遊んだり、挑戦意欲を高めたりできるような支えを工夫した。 ・ドッジボールやサッカー遊び、なわとび等、戸外で思いきり体を動かしながら、クラス全員が競ったり、励まし合ったりしながら一つの遊びに集中して取り組めるよう支え、充実感や満足感を味わえるようにした。 ・特に年長児は小学校に向けて小1プロブレム解消に向けた3つの遊びを中心としながら体力向上につながる遊びを計画的に行なった。	B	○竹馬、縄跳び、こま回しなど目標に向かって遊ぶ経験ができた。またそれぞれの発達に合わせてスモールステップで取り組めるように工夫すると共に達成する喜びを感じられるように支えた。また遊びを通して育つ意欲、向上心、達成の喜び、充実感、満足感などが学習意欲につながることをドキュメンテーション等で保護者に伝えた。 ○体作りのために、チャレンジカードを作って意識付けたり、鬼ごっこ遊び等で園内の行動範囲を広げ、体を動かして遊ぶ姿を大切にした。	△遊具やボールなど遊びを自由な発想で扱う姿が少ない。より自分たちで遊びを創り出す力につながるように教師がモデルとなる必要があった。また遊具や道具を扱う中で危険を察知する力、安全の感覚を身に付けてほしい。そのための経験を増やせるようにしたい。 △コロナの影響により降園時の園庭開放が難しい日が多くあり保護者が幼児同士の遊びを知ったり、関わりを深める機会が少なかったように思う。	・様々な遊びの経験の中で意欲を育む工夫がなされていることが素晴らしい。 ・園庭で園全員で遊ぶことが出来ないことが残念だが、出来ることを工夫されている。	A
様々な人とかわり、豊かな体験をする。	◎優しく、思いやりのある子 ・善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなり、教師自身が幼児の心を傷つけたり、人権を損なったりするような言葉や態度、かわり方をしない心がけた。 ・四季折々の自然や生き物に対する感性を持ち、心や体をつかって表現したり、遊びに取り入れたり出来るよう保育実践や教材研究に努めた。 ・異年齢児とのかかわりや飼育栽培物の世話を通して、あこがれや思いやりの気持ちをもって接することができるような機会を届け、支えていった。 ◎豊かに表現できる子 ・一人一人の育ちに応じた認め、励ましを行い、学びに応じた環境を整え、運動会、音楽会、生活発表会等行事や様々な遊びへの意欲を高めていった。 ・幼児の気持ちに共感したり、一人一人の幼児の思いを把握しありのままを受け止めたりして内面理解に努め、思いを素直に表現できるように関わった。	B	○2学期の様々な行事を幼児自ら目標に向かって遊ぶことができるように計画したことで、幼児自身がクラス活動を自分事として捉え、より楽しくなるように工夫したり、問題に気付き、解決するために試行錯誤したりする姿が育った。またその中でクラスへの帰属意識、チームワークの大切さを高めていった。そのことが相手の気持ちに寄り添おうとする力につながった。 ○昨年度のコロナ禍の中で異年齢との活動の必要性を強く感じた。今年度も不自由な中であつたがペア活動を取り入れたり、玄関ホールに家庭の場所を示す地図を掲示したりしたことで親しみをもって関わる姿につながった。 ○ウサギ当番や生き物探し、栽培物の水やりなど身近な自然に触れて遊ぶように計画し取り組んだ。心を動かして遊ぶ機会が見られた。	△年度当初、他者の気持ちに気付くにくい幼児、自分の素直な思いを出し切れない幼児、自分の思いを強くもたない幼児の姿が目立った。次第に共感し合いながら生活する喜びを感じ、今では仲間意識をもって生活する姿が見られるようになったと思うが、コロナ禍の中で従来の経験が出来ていないのも現状である。来年度以降は、経験を従来に近づけるための方法を模索して補うだけでなく、新たに必要経験を考え加えていく努力が必要である。教師間、保護者と相談しながらより他者と生活を豊かにしていく力を身に付けられるような保育を計画していきたい。 △入園児数の減少によって様々な弊害が予想されるが、より個々のよさが活かされ、友達との関わりが深まる保育を計画していきたい。	・コロナ禍で活動が制限されている中、出来るだけ他者との関わりが薄れないように人との関わりを大切に思っで計画をしてくださっていることが分かる。	A
教師の資質向上を目指す。	各学年の遊びや活動の連携や学びの連続性、気になる幼児のことについて話し合い、互いの保育に活かすことが出来た。また、小学校につながる学びについて考慮したクラス便りやドキュメンテーションを作成し、共通理解を深めた。 保護者からの意見や上司からの指導を真摯に受け止め、反省し、課題を見つけ、フィードバックしながら保育に努めた。	A	○年間を通して教師間で幼児の発達や保育の向上に向けて相談しながら保育を進めることができた。 ○製作展ではドキュメンテーションに加えて、カリキュラムの具現化を目指してポスターを製作するなど、保育の可視化に努めた。また園長から指導を仰いだり、教師間で意見を交わしたりしながら資質の向上を目指した。今回は小学校の校長先生や他園の先生方に少しでも来ていただくことが出来、意見を聞くことができた。 ○2年前から指導して頂いている京都女子大学の坂井教授の指導を今年度も継続して受けることができ、学びになった。	△保育の資質向上のために時間をつくり出す努力が必要である。コロナ禍であり職員が個別で仕事をする時間が増え、保育の伝え合いの時間が減少している。会議だけでは足りないのも、思いを伝え合う場が必要である。 △教師同士、互いのキャリアを生かす工夫をしていきたい。教師全員で協力して全園児が育っていける環境構成、援助や保育の可視化等を模索していきたい。	・先生達がしっかりと連携をとれるよう意識していることが分かる。 ・互いにコミュニケーションを取ることがますます必要になる中で、幼児や保護者のためを思っで一生懸命頑張っていることが分かる。	A
地域に開かれた園作りを行う。	コロナ禍においてできる限り地域や小学校との連携が密になるよう努めた。また、五校園長会、合同補導やユニット会議などの内容を共通理解し、地域、小、中学校との連携を深めた。	C	○小学校との連携がもちにくい中連続した学びとなるように努めた。 ○ユニット会議など少ない機会を大切にしたい。 ○今年度も地域のボランティアの方やゲストティーチャーの講師の先生にお世話になり感謝している。幼児にとって地域の方への親しみや感謝の気持ちをもつ機会となっている。	△コロナ禍で他校との連携をもつ機会が少なかった。幼児には教師の話や絵本等で小学校の暮らしなど伝えたが十分ではない。直接ではなくても間接的につながっていくように努力が必要である。	・来年もコロナが続いていくことが予想される中で、出来るだけ小学校や地域とのつながりがもてるよう工夫して欲しい。	B